

DISCOVERY

シコク発見



すだちファーム おおなか

OHNAKA Kaori

大仲 香織

■address

徳島県名東郡佐那河内村上字遠野70-2

～佐那河内村(さなごうちそん)について～
徳島県北東の山間に位置する県内唯一の村。すだちなどの和柑橘のほか、キウイフルーツ、さくらももいちご、花卉などの近郊農業が盛んとなっている。

【佐那河内村DATA】(出所)佐那河内村HP
総面積 42.28km²
総人口 2,058人(男 998人 女 1,060人)
世帯数 771世帯

農業って楽しい！すだちで広がるネットワーク

言わずと知れた徳島県の名産品「すだち」。「すだちファームおおなか」の大仲香織さんは、県北東部に位置する佐那河内村で約800本のすだちを栽培し、品種開発にも取り組んでいます。

また、女性の農業ネットワークである「阿波アグリガールズラボ」の創設メンバーでもある大仲さん。後継者問題など課題の多い農業分野ですが、みんなに「農業って楽しい！」と思ってほしい…そんな大仲さんの取組と、農業の魅力について取材しました。

—元々ご実家が兼業農家だったと伺いました。農家を継いだきっかけについて教えてください。

最初のきっかけは、学生時代に農業関係の知り合いが増えて興味を持ったことですね。私は父の勧めで県外の農業系の大学へ進学したのですが、同じように実家が農業をしている人たちの話を聞いているうちに、「農業って面白いな」と思うようになりました。また、実家のすだちを送ってほしいと言ってくれる方や、県外の量販店を紹介してくれる方との繋がりも生まれ、農業をやってみるのもありかな、と思うようになりました。

当時実家では会社員だった父の代わりに母と祖母が2人で農業をしていました。大学卒業後、徳島に戻っていったんは就職しましたが、30歳の時に祖母が足を痛めてしまったことから、母を手伝う形で農業を始めました。現在は父も会社を退職し、両親と一緒にすだちを栽培しています。

🍊 おおなか育ち！「さなみどり」と「阿波すず香」

—現在はどうな種類を栽培しているのですか？

メインはすだちで、一般的なすだちと、2004年に品種登録された「さなみどり」の2種類を育てています。この「さなみどり」は、佐那河内村の名産品になれば、という思いから、私が名付けました(2017年に商標登録)。種が少ない分果汁が豊富で、味も香りも濃厚なのが特徴です。また、一般的なすだちよりも果皮が柔らかいため果汁を絞しやすいのも特徴です。



2017年「とくしま特選ブランド」に認定。ふるさと納税の返礼品としても採用されており、リピーターも多い。



果汁たっぷりでジューシー！皮の苦みが少ないので、マーメイドにするのに最適。

その他、新しい品種の香酸柑橘類「阿波すず香」も栽培しています。「阿波すず香」は、すだちとゆずを交配させた新種で、2017年度から佐那河内村を中心に本格栽培が始まりました。

一般的なすだちに比べて病気に強く、どの地域でも栽培できるというメリットがある一方、皮だけでなく葉にも苦味がないので、害獣被害が多いというデメリットがあります。このため、現在徳島県下で栽培している農家は20~30戸ほど、生産量も2トンくらいしかなく、流通量が少ないことから、認知度が低いことが課題です。

「阿波すず香」には、種が少ない分果汁が多く、皮まで丸ごと使えるという特徴があります。このため、加工に向いており、卸先のお菓子屋さんでは「阿波すず香」を使ったジャムやケーキ、ゼラートなどが販売されています。さわやかな香りもスイーツとの相性抜群ですので、リピーターも多いです。こうした特徴を積極的にPRしていきたいですね。



—果樹を育てる難しさとは？

まず、最初の収穫までが長いことですね。果樹は植え付けをしてから実がなるまで5年くらいかかります。さらに、実がなるのは年に1回だけですので、例えば途中で花が咲かなかったり、実が病気にかかってしまったりすると、その年の収穫ができなくなるなど、リスクが大きいです。

また、育て方はもちろん畑の状態など環境もそれぞれ違いますので、必ず5年で実がなるとは限らず、新規就農の場合には難しい分野かもしれません。ただ、一回植えれば30年、40年と収穫できるので、難しいことばかりではないですよ。

—すだちならではの苦労はありますか？

特に「さなみどり」は難しいですね。果皮が柔らかく水分が多いので、雨が降ると収穫することができません。日光で果皮の水分がある程度乾いてから収穫しないと、果皮が柔らかすぎて収穫する時に傷がついて変色してしまう恐れがあるからです。一般的なすだちよりも丁寧に扱わなければならないので、一日の収穫量も限られてきます。

また、「さなみどり」は病気に弱い品種です。特効薬がないといわれている「かいよう病」という病気にかかってしまうと収穫しても店頭には並べられず、加工にも回せなくなってしまいます。しかし、それだけの苦労がある分、おいしいすだちが獲れた時はより一層嬉しいものです。



農業女子らでつくるネットワーク「阿波アグリガールズラボ」

—「阿波アグリガールズラボ」とはどんな組織なのでしょう。

徳島県東部地域を中心とした若手女性農業者と農業分野の女性事業者のネットワークで、徳島県の農業支援センターからの打診を受け、2017年に設立されました。

当初は4人の組織でしたが徐々にメンバーが増え、現在は50人程になりました。メンバーは農家だけではなく、製菓、食品加工、種苗関係など様々な業種の女性がいます。

具体的な活動内容は、販路やマーケティングなどの情報交換をはじめ、農業に関する勉強会の主催など。勉強会では、農業・土壌といった農業そのものがテーマの場合もあれば、インボイス制度など農業以外の場合もあり、農業に関連した幅広いテーマで行っています。また、ネットワークを活用し、お客さんを紹介して販路拡大に繋げたり、余剰作物で困っているという話があればロス削減に協力し合ったりしています。その他、県内他地域の女性農業者との交流も行っています。



「阿波アグリガールズラボ」の活動例。マルシェへの参加(写真左)や勉強会の開催(写真右)など、様々な活動でメンバー同士を繋いでいる。



—「阿波アグリガールズラボ」の魅力とは？

気軽に集まって農業等に関する情報交換を行うことができることはもちろん、「阿波アグリガールズラボ」の集まりがきっかけとなって、様々な人との繋がりを作れることが魅力です。

「阿波アグリガールズラボ」の参加メンバーは、「自分が作った物を自分で売りたい！」って思って頑張る人が多いです。自分の畑のブルーベリーをジャムにしたり、自分で育てた小麦を製粉してクレープを売ったり、様々ですね。最初は小さいマルシェに出店することから始めて、軌道に乗れば自分の畑の近くにカフェなどのお店を建てる、というように、メンバーがどんどんスキルアップしていると感じます。

また、例えば新品種の栽培に成功したとか、実際にお店を開いたという人がいれば、それがノウハウとしてメンバー内で共有できますし、「自分もやってみたい！」という刺激にもなります。新しいことを始めようと思った時に人に聞ける場があるというのは心強いと思いますし、私自身、そんなメンバーたちの様子を見ているとモチベーションが上がります。組織としても個人としてもいい方向へ向かっていると感じますね。

農業は「会社経営」、農家は「社長」

—今後の目標を教えてください。

どの業種でも共通の課題ではありますが、農業分野は特に後継者・人手不足という悩みを抱えています。肉体労働ですし、どうしてもきついというイメージがありますよね。

すだちでいえば、夏場の炎天下の中での収穫作業、さらにトゲがあるため収穫する時に痛いということもあり、アルバイトですらなかなか集まらないのが現状です。

ですが、私自身は、農業はとても魅力的な職業だと思っています。

農業は、何を作るのかというところから始めて、栽培する場所や方法、収穫物の販路や値段など、全て自分で考えて決めて売る。農業は会社経営に似ており、農家は社長だと思っています。

また、色々な繋がりができるのも農業の魅力の一つです。「阿波アグリガールズラボ」のような横のネットワークもそうですし、飲食店など食に携わる様々な業種で繋がりができることも、農業の面白いところですね。



農家や、農業に携わる人がもっと増えてほしい—そのためにまず、自分の子供たちに「将来は農業をやりたい！」と思ってほしい…と考えた時に大切だと思ったのは、私自身が楽しく農業をやること。

楽しそうに仕事をする私の背中を見て、農業が子供たちの将来の夢の選択肢の一つになってくれたら嬉しいですね。

※掲載内容は2023年5月現在のものです。（一部に収穫時期の写真を使用しています。）



取材を終えて…



みんなが頑張っているから自分も頑張るとおっしゃった大仲さん。私たちが食べている食べ物ひとつひとつに生産者さんの頑張りが込められていることを改めて感じました。徳島のおいしいものを食べて明日からも頑張ります！

（徳島財務事務所 理財課・野中 友美子）

農家だけに留まらず他業種との交流も積極的に行い、消費者のニーズに応えるべくより高品質なすだちになるよう試行錯誤をしているそうで、リピーターが多いのも納得です。サイダー、ビール、アイスにも絞ると美味しいとのことですので、ぜひお試しください！

（徳島財務事務所 財務課・坂本 春香）

人との繋がりを大切にし、農家だけに留まらず製造業や量販店等の他業種とも繋がりが深い大仲さん。持ち前の朗らかなお人柄に触れ、取材後には大仲さんとすだちの虜になってしまいました。

（徳島財務事務所 総務課・黒田 みなみ）